

様式1

学校教育目標	自ら学び、考え、発信する 子供の育成	尾道市立美木原小学校
--------	--------------------	------------

a ミッション	小中連携を核とした確かな学力定着の取組の継続と発展	a ビジョン	○児童の主体性を育み、未来につながる学力をつける学校 ○幼・小・中の連携による学びの連続性を大切にしている学校 ○家庭・地域とともに、子供の育ちを考える学校
---------	---------------------------	--------	--------------------------------------------------------------------------------------

評価計画				自己評価						学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月		h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
学びを創る	「考える伝え合う力」の育成	論理的思考力の向上	①フレームリーディングによる「読むこと」の指導 ②思考ツールの活用	単元テスト・学期末テストの平均通過率（国語科 思考・判断・表現の観点）	全国平均以上	88.5	88.2	106.0%	A	2学期単元末テスト・学期末テストにおいて、学校平均が全国平均を5、2ポイント上回り目標を達成した。フレームリーディングを活用した読む学習を通して、数える、選ぶ、表現する学習の仕方は定着してきているが、初見の文章では、問いが正しく理解できていないことや目的に応じて正しく情報を取り出すことに課題がある。今後は、他教科や日常生活の中で、既習したことを意識して活用させていく。	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きよろしくお願ひいたします。</li> <li>全国平均が達成度の尺度になっていて大変そう。読み込み、理解する力は大切ですが、個性がみんな違うので難しいですね。フレームリーディングの様子をいつか參觀したいです。</li> </ul>	フレームリーディングによる読むことの指導を継続し、児童の問いを生かした児童主体の授業を創る。また、対話を通して、叙述の言葉や表現を読み深く、考えを創り出す協働的な学びを仕組む。自分の考えを論理的に書いたり、キーワードを使って書いたりする活動を継続する。 NIEタイムのワークシートを活用し、問いと答えを意識した読みや複数の条件を与えて書かせる言語活動を工夫する。
生活を創る	児童自らが学校生活を創る特別活動の充実	自己有用感の向上	①児童会とコラボレーションした委員会活動や名人表彰 ②よりよい生活作りへの参画	自己有用感に関するアンケート（肯定的評価）	上半期75% 下半期85%	89.0	84.7	99.6%	B	自己有用感に関する児童アンケートの結果において肯定的評価は84.7%で、縦割り班掃除・児童会活動・自己について肯定的に捉えていた。これは、下半期目標値である85%を下回る結果となった。前回の7月の結果と比べると、全体では自己有用感が5.5%低下した。項目別で見ると、自己肯定感を見取る項目が1年生～5年生の学年で、9.2%と大幅な低下が見られた。今後の取組方向と改善策として、名人表彰と「ありがとうカード」は今後も継続する。さらに、縦割り活動と学級活動でほめタイム等の活動を行っていく。企画や参加した双方向が「やってよかった。」などの満足感や充実感を味わうことができるようにする。	1	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で、学校生活、家庭でもイベントごとが減るなどの影響から大人が思っているよりもストレスや孤独感を感じているのではないかと思います。世間でも子供、学生による事件も多発しており、家庭と学校との連携の重要性を感じます。</li> <li>高学年の児童が楽しそうに学校生活を送っていたら、自然に低学年はあこがれるし、良い雰囲気になると思っています。アイデアをしほってどんどんやってください。</li> </ul>	児童会や委員会を中心とした縦割り班での活動を継続し、児童自らが学校を創っていることを意識させ、自己有用感につなげる。そのために、児童会や委員会は腕章を付け特別な意識をたせたり、下学年からの意見をイベントに取り上げたりすることで、全児童の自己有用感の向上につなげる。家庭との連携を密にするため、学期ごとに実施している生活振り返りチェック表で児童と保護者、担任や養護教諭が情報を共有したり、お互いにコミュニケーションが図る場が作れるよう改善する。
働き方改革	豊かな教育活動の充実	よりよい働き方による超勤時間の減少	①セルフタイムマネジメントによる働き方（月1回以上） ②分掌部会における業務改善の発案	超勤時間の平均	4.5時間以下90%以上	91.0	91.4	101.5%	A	1月の達成値は91.4となり、目標値を上回ることができた。自分の入退校記録を月の途中で確認し、今後の超勤時間に見直しを持って業務を遂行することや、退校時刻から逆算してその日に行う業務を考えるなど、一人一人が時間を意識して働くことができた。また、分掌における担当を分掌部内で見直し、時期や状況によって配置や人員を換えるなど、自分達にとって効率的な業務の遂行もできた。しかし、大きな行事や成績時期など、超勤時間が増加しがちな時期があった。また、生徒指導の対応などによって遅くまで残った日もあった。今後の行事や時期を見据えて、計画や準備を早めに行うことや、これまで以上に職員間の連携を密に行い、より効率的な働き方を意識して職務を行っていく。	1	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>勤務時間内でしっかり子供達とかかわっていたら、先生方にも達成感のあることができればいいと思います。人員不足はあるのではないかと思います。</li> <li>役割や時期による超勤はどこ職種でもあることだと思うのですが、心身が健康を保てるよう、これだけは願ひします。</li> <li>全国的に子供たちの将来にたい仕事で先生の順位は残念ながら上位にはありません。社会や子供のためになっていると評価しつつも、仕事がつらい、負担が大きいなどの負のイメージが大きい。子供たちはわかりやすい授業をしてくれる先生や自分の話を聞いてくれたり褒めてくれたりする先生を求めています。あこがれの職業になるよう残業時間を限りなく0に近づける工夫をして公私が充実し、子供達に近い存在でいてほしいと思う。</li> </ul>	今後の行事や時期を見据えて、計画や準備を早めに行うことや、これまで以上に職員間の連携を密に行い、より効率的な働き方を意識して職務を行っていく。業務内容や自身の働き方を再度見直し、スクラップ&ビルドを行った。優先順位を設けたりするなど、必要なことは残しつつも、より働きやすい環境づくりを目指す。やらなければならない業務もあるが、自身も子供達も楽しめるような授業や取組を行い、日々の学校生活に充実感をもてるようにする。

【自己評価 評価】 A：100≦（目標達成） B：80≦（ほぼ達成）<100 C：60≦（もう少し）<80 D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。